

大学

アーカイブズ

全国大学史資料協議会東日本部会会報

2006. 3. 31 No.34

Eastern Japan Section, The Japanese  
Association of College and University  
Archives

## 目 次

・熊本好宏「小室正紀氏講演「近代日本研究と慶應義塾福澤研究センター」を聞いて」	1
・吉田知致「西澤直子氏講演「『150年史資料集』編集作業と資料整理」を聞いて」	3
・大平和典「全国研究会（テーマ「大学史資料の公開と活用」）に参加して」	4
・山本美穂子「全国研究会（テーマ「大学史資料の公開と活用」）に参加して」	5
・松崎彰・西口忠「全国大学史資料協議会2005年度総会・全国研究会の記録」	7
・小橋安紀子「伊藤昌弘氏「成蹊学園史料館概要について」 及び「成蹊学園史料館資料整理・調査方法について」を聞いて」	11
・石田順二「「進行形」の文書館－埼玉県立文書館見学会に参加して－」	12
・全国大学史資料協議会2005年度総会議事録・記念講演記録（抄）	13
・全国大学史資料協議会2005年度役員会議事録（抄）	14
・全国大学史資料協議会東日本部会幹事会議事録（抄）	15
・全国大学史資料協議会東日本部会研究会記録（抄）	17
・全国大学史資料協議会東日本部会会員名簿	21

2005年10月5日～7日 全国大学史資料協議会2005年度総会ならびに全国研究会・記念講演

## 小室正紀氏講演

## 「近代日本研究と慶應義塾福澤研究センター」を聞いて

学校法人國士館年史編纂室 熊 本 好 宏

## はじめに

平成17年10月5日から7日にかけて、慶應義塾大学を会場に2005年度全国大学史資料協議会が開催された。第1日目、開会の挨拶につづき、小室正紀氏（慶應義塾福澤研究センター所長）による「近代日本研究と慶應義塾福澤研究センター」と題して、記念講演が行われた。

小室氏の講演は、慶應義塾福澤研究センター発足以来のあゆみや活動の特色、その課題点などの内容であり、福澤研究センターの行っている活動が概観できる大変有意義な講演であった。なお、実際の活動など実務面については、次に講演された西澤直子氏（慶應義塾福澤研究センター助教授）が説明した。

以下、小室氏の講演の要旨を紹介するとともに、最後に所感を述べてみたい。

## 1. 福澤研究センターの特色

まず、慶應義塾の創設以来の歴史やその特色について紹介があった。小室氏によれば、慶應義塾のあゆみのなかで、大学が中心的な存在ではなく、幼稚舎から大学までの一貫校の歴史に特色があるとのことであった。この「一貫校」という位置付けには、創設者福澤の教育思想が大きく反映していた。福澤は、大学は社会の専門家の教育機関、慶應義塾は市民の教育機関との考え方で、慶應義塾を創設した。このため、大正9年の大学令による大学昇格以降も、慶應義塾の中では大学が中心的な存在ではなかったという。以上の慶應義塾大学の歴史や思想から、福澤研究センターでは「慶應義塾福澤研究センター」の名称に示すとおり「大学」を冠しない機関となり、同センターでの研究は「大学史」ではなく、



「学校史（塾史）」となったことが大きな特色であるとの説明があった。

## 2. 近代日本研究機関としての福澤研究センター

次に、福澤研究センターの研究内容についての説明があった。福澤研究センターの英文機関名は「Fukuzawa Memorial Center for Modern Japanese Studies」と表記している。この英字名称が示すように、福澤研究センターは近代日本研究を大きな目標として創設された。ゆえに、福澤研究センターの研究活動のテーマは、広義な近代日本研究である。特に、福澤の教育思想とその近代日本社会の関係に着目しており、慶應義塾自体の学校史から離れ、広く日本近代における教育史を研究する機関であるという。具体的には、1982年以来の門下生研究や『塾員姓名録』の整理などの卒業生の活動研究をはじめ、慶應義塾の歴史を創設者福澤が近代日本に投げかけた問題として研究活動を行っている。さらに、研究内容の公開・普及の活動としては、講演会・セミナーの開催（年8回）、刊行物の発刊などを行っている。刊行物としては、『近代日本研究』（年1回）、『近代日本研究資料』、『福澤研究センター資料』などを発刊している。

## 3. 教育機関としての役割

福澤研究センターの教育機関としての役割は、年々増加の傾向にあるとのことであった。その背景には、慶應義塾大学の教職員に卒業生が減少していることや、マスプロ教育の進展などへの反省からとの指摘があった。その対応策として、規程を改正し、福澤研究センターの研究成果を自校史の講座で公開することが、平成17年度から実施されることとなっている。具体的には、「近代日本研究Ⅰ・Ⅱ」「近代日本研究演習Ⅰ・Ⅱ」（各半期2コマ）、経済学部新入生対象に「近代日本と福澤論吉」（通年）などを開講している。これらは、福澤研究センター所員となっている教員が授業を担当しているとのことであった。

この他、対外サービスとしては、テレビ番組への情報提供（クイズ番組など）などのレファレンス作業を行っているが、時間的な制約が最も大きい業務となっていることが現状であり、問題であると指摘があった。

福澤研究センターでは、近代日本の研究やその成果を自校史教育や対外レファレンスなどの方法で公開することが、現在の最も大きな業務となっているとのことであった。



講演する小室正紀氏

## 4. 現状の組織

最後に、これらの業務をどのような組織で運営しているのかについて説明があった。現在、福澤研究センターでは所員23人、事務局は専任3人、常勤嘱託2人、非常勤嘱託2人、この他、アルバイト、研究嘱託3人、客員所員、顧問の人員で、専任の研究員は1人（西澤氏）とのことであった。

事務局員の日常業務としては、これまで述べてきた業務のほか、150年史編纂のための資料収集も行っているとのことであった。業務の分担としては、資料の収集、整理については西澤氏、書籍については三瓶氏（事務職員）が担当しているとのことであった。最後に、収蔵資料の点数などについて、現在蔵書約40,000冊、資料約10,000点を所蔵しているが、収蔵スペースは充分ではなく、著しく不足している状態であるという。

## おわりにかえて

以上、小室氏の講演の要旨を紹介してきたが、最後に感想を述べておきたい。今回の講演を聞き、慶應義塾福澤研究センターは大学史のための機関ではなく、慶應義塾全体の学校史のための機関であることがよく理解できた。また、その活動には、慶應義塾内での役割と、研究機関としての役割を担っていることについても理解を深めることができた。講演の冒頭にもあったが、大学史を取り扱う各機関は、設置の経緯や学内の位置付けなどが多様であるし、そのため特色もそれぞれであろう。また、機関の組織も各々の事情により異なっているのが現状である。組織の位置付けに関わらず、その活動は、大学を中心として取り扱われる傾向にあるのではないかと思われる。近代日本研究のなかに大学史をとらえる重要性が高まりつつあるなかで、福澤研究センターの大学の枠を越えた研究活動や教育活動には見習う点が大きいのではないかと感じた。

全国大学史資料協議会2005年度総会ならびに全国研究会・記念講演

## 西澤直子氏講演

### 「『150年史資料集』編集作業と資料整理」を聞いて

東北学院法人事務局庶務部広報課 吉田知致

慶應義塾福澤研究センターの西澤直子による講演は、最初に福澤研究センターの位置づけ、活動目的についてそしてUniversity Archivesとの違いについて話された。福澤論吉にかかわる資料の収集整理保存が主な活動目的であり、その利用頻度も福澤関係が多いとのことである。

東北学院（以下本学とする）においては、百年史編さんで収集された資料を整理・保存・利用するため、その後に東北学院資料室を設置し（2001年5月開設）引き継ぐこととなった。現在は、創立者や本学にかかわる全てについて対応しており、Archivesの傾向が強く表わされ、福澤研究センターとの違いを理解した。

所蔵されている資料は、福澤関係資料と慶應関係資料に大別され、その蒐集について前者は所蔵機関の分散、後者においては文書保存規程があつても、作成主管部課の保存の判断次第によるという課題があるとのことである。本学でも創設者の資料が分散しており、文書保存規程もないのが現状である。

資料受入作業については、基本資料カードの作成から行っており、他に比べ特別な違いは見あたらない。ただデータベース入力のためEXCELを使っており、資料検索に難点があるとのことである。本学でも一部EXCELシートを利用しているが、点数が増えるにしたがって利用しにくくなっている。また、資料の収納については、その形状によって収納方法、場所を工夫しなければならない問題がある。

『150年史資料集』編さん作業と資料整理については、創立100年までの資料とそれ以降50年分までの資料に分けて話された。100年以前については、原史料の所蔵機関のわからない筆写資料、タイトルが表記されてない・わからない資料、利用の権利関係が不明瞭な資料などがあり、特に写真関係の版権につい



ては問題である。これは本学でも当時の関係者が退職したり、記憶がはっきりしないためまばらになっている部分である。ただし、現在は事前に了解を得るようにしている。101年以降については、新たな人権問題に配慮しつつ、特に最近は、2005年4月に個人情報保護法が全面施行されたことにより、十分な注意が必要となった。しかし、“歴史的事実であり、また研究目的である”との観点から理解を得て、また、文書規程以前に廃棄された資料については、個人所蔵資料に保存されている可能性を見いだしているとのことである。本学資料室においても101年以降（1987年以降）については、あらゆる発刊物の素材を基に収集を試みているが、全学的な環境整備が必要と危機感を募らせている。

今後の課題は、重要な現用文書廃棄回避のための選別システムの必要性、会議などで配られた参考資料（地図、メモ類）の欠落とデータ保存への意識の欠落、オーラル・ヒストリー手法による旧職員からの聞き取り、資料の普遍性・多様性の見極め、研究者の共有財産としての「情報」の保存方法などがあげられた。

また、講演のおわりには、今後学問的分析に耐えうるような資料の収集整理保存の必要性、ひいてはUniversity Archivesとしての機能の充実と専門的なアーキビストの必要性について話されたのが強い印象として残った。

全国大学史資料協議会2005年度全国研究会

## 全国研究会（テーマ「大学史資料の公開と活用」） に参加して

皇學館館史編纂室 大 平 和 典

全国大学史資料協議会2005年度総会ならびに全国研究会の第2日目にあたる10月6日（木）、「大学史資料の公開と活用」のテーマのもと全国研究会が開催され、「年史編纂」「閲覧・レファレンス」「展示」についてそれぞれ報告を聞くことができた。

松崎彰氏がテーマ発題において述べられたところによれば、本年は1996年に東西合同の研究会が開催されてより10年目にあたり、原点に戻って「大学史資料」の基本的問題をテーマに設定されたものであるという。大学をめぐる昨今の状況を鑑みれば、いずれの大学においてもその歴史や建学の精神は改めて見つめ直されるべきであり、自校の歩みを教育史・学術史上に位置付け、また大学史資料を公開活用することの意義はますます深まっている。本会もそのような環境の中で活動を広げているものであろうが、ここに10年目を迎えて原点に立ち戻ることの意義は大きいように思われる。

研究会の概要は本誌に別に記録されているので重複を避け、年史編纂に携わって2年目である筆者および自校の立場での所感を雜駁に記すことにするが、浅学の身ゆえ本会の蓄積を十分に理解できていないがための敷衍や誤りも多いであろう点をあらかじめ諒とされたく、またご教示賜わりたい。

### 1、年史編纂

日本大学資料館設置準備室の田渕正和氏より、「日本大学の年史編纂事業と日本大学資料館設置準備室の設置」と題しての報告がなされた。はじめは組織が整わずに稿本・略史にとどまり、90年史編纂において組織は整ったものの広報部による調査の故に、資料保存がなされず、また出典も明記されず、現在の百年史編纂につながらなかったという、組織上の問題点が報告された。

日本大学の事例は、個人あるいは広報課等



全国研究会総括討論の様子

の部署による編纂執筆→年史編纂室→大学アーカイブス、という典型的な道を辿り、現在大学アーカイブスへ移行する最中であるという興味深い報告であるが、日本における大学アーカイブス設置が、年史編纂後の資料保存、次の年史編纂への継続、という点を大きな起因としていることを具体的に示すものでもあった。加えて、大学史研究の深化を背景として、公正的史眼、正確かつ豊富な資料に基づく必要性から、充実した機関が求められたものであろう。

筆者の所属先は現在年史編纂をおこなっており、大学アーカイブス設置の問題は今後の課題であるので、その必要性を考える上で示唆に富む報告であった。また一方で、実際に作業にあたる者にとっては、理事に対するそのような働きかけも必要ではあるが、より具体的な作業の問題点にこそ関心があるという感もある。その点、資料館設置準備室と大学史編纂課が併存しているその関係性、資料収集の状況、などが論じられた質疑応答においてそれが補われ、有意義であった。

### 2、閲覧・レファレンス

「閲覧・レファレンス」については、東京大学史史料室の谷本宗生氏より「東京大学史史料室の閲覧及びレファレンス対応」として

具体例が報告された。

年史編纂の材料としての資料収集が本務となる年史編纂室においては内規や明確な基準を定めていない場合が多くなるが、大学アーカイブスへの移行を視野に入れる必要があり、収集した資料を死蔵させないためにも、学内、あるいは一般の利用に供するための資料集の刊行、資料目録作成、資料紹介等の他、閲覧・レファレンスといった作業が求められる。重要な史料群を有し学内外に機関の存在が周知されれば自然発生するもので、レファレンス対応から逆に教えられる場合もあることを考えれば、大学アーカイブス・年史編纂室を問わず取り組まれるべき作業であると感じた。

本テーマの大きな問題関心の一つが、個人情報保護の問題、各部局に分散する資料を一元化すべきか否かの問題であり、質疑応答において議論がなされたが、とりわけ後者は共通の認識を得ていない。一元化が理想的ではあるが、各大学の状況によって対応せざるをえない問題の故かと思われる。

### 3. 展示

「展示」については、同志社社史資料センター小枝弘和氏より「同志社関係資料とNeesima Room」の報告がなされた。展示は資料公開の有用な手段であるが、年史編纂にとっても学内の気運を高める絶好の機会となる。筆者の所属先においても学内を対象とした第一回目の展示会を同月末に予定していたため、興味深く拝聴した。

展示はその人員、場所、予算、対象とする来場者等により実施の方針は大きく異なりそれによって制限もされる。また、実物を展示すべきか複製品を用いるべきかといった博物館学の基本的な問題も残る。とはいっても質疑応答を含めて多くの事例を知ることができた点は大いに参考になった。

以上三点、筆者にとってはいずれもこれから近く直面するであろう課題について、貴重な現状報告を具体的に聞くことができ、後進として極めて有意義であった。報告者はじめ、各位に感謝申し上げます。

全国大学史資料協議会2005年度全国研究会

## 全国研究会（テーマ「大学史資料の公開と活用」） に参加して

北海道大学大学文書館 山 本 美穂子

### はじめに

2005年10月5日から6日にかけて、慶應義塾三田キャンパスにおいて全国大学史資料協議会2005年度総会・記念講演・全国研究会（研究報告）が、同月7日には日本女子大学において全国研究会（見学会）が開催された。筆者は北海道大学大学文書館から、当総会および全国研究会へ参加する機会を得た。以下、全国研究会（研究報告・見学会）のプログラムへの参加感想を書き留めていきたい。

### 報告「年史編纂」について

研究報告は「年史編纂」、「閲覧・レファレンス」、「展示」について3報告がなされた。まず、第1報告は日本大学資料館設置準備室

の田淵正和氏による「日本大学の年史編纂事業と日本大学史料館設置準備室の設置」であった。90年史、100年史等といった大学史編纂事業にあたり収集された資料の整理・保存について、大学史編纂の記念事業の終了、担当部署の改組とともに見えてきた諸問題が報告され、資料情報の一元化を目指した組織体制が望まれると報告があった。

大学史編纂後の資料（文書、写真、刊行物等）の整理・保存については、北海道大学大学文書館でも、保存期間が満了した大学法人文書（非現用法人文書）のほかに、創基100年史、125年史編纂にあたり収集した資料群を継承していることから、資料履歴（資料受入情報）の引継や資料の分類・整理方法など、

今後、検討していかなければならない課題が多い。本報告からは、それら課題が再認識された。

#### 報告「閲覧・レファレンス」について

第2報告は、東京大学史史料室の谷本宗生氏による「東京大学史史料室の閲覧及びレファレンス対応」であった。「閲覧」については所蔵資料目録の整備、閑架方式による閲覧方法の工夫、複写（撮影）申請方法など、「レファレンス」については照会・回答・典拠内容のデータ蓄積など、史料室における具体的な業務の説明があり、非常に参考になった。

また、複写（撮影）申請によって複製された電子媒体による資料（複製資料）の取り扱いについて、質疑応答で取り上げられた。電子媒体の複製資料が無断使用されるなど、著作権の問題を含めた複製資料の管理の難しさについて、北海道大学大学文書館でも覚悟しなければならないと感じた。

#### 報告「展示」について

第3報告は、同志社大学同志社社史資料センターの小枝弘和氏による「同志社関係史料と Neesima Room」であった。2004年春に同センターにおける企画展「函館からボストン 新島襄『脱国140年』記念」を拝見したことを思い出しながら、展示企画段階での主体的に明確な理念の設定、学内外における資料収集活動など、展示の企画・準備・実施における報告を拝聴した。

現在、北海道大学大学文書館は展示室を設置していないが、学内の他部局（総合博物館等）による展示において、（1）資料及び資料情報の提供を行う、（2）展示の企画・準備に参加するといった形で「展示」に携わっている。この点から、「展示」業務の手法について、今後も実績のある諸大学の展示に学んでいきたいと思う。

また、北海道大学大学文書館所蔵資料（125年史収集資料）には、同志社関係の写真も含まれていることから、同志社社史資料センターの展示業務へ将来的に資料提供ができるよう、早急に資料整理に着手したいと考えている。



日本女子大学成瀬記念館企画展見学会について

見学会は日本女子大学成瀬記念館の皆さんのご案内で、記念館のほか、成瀬記念講堂（1906年建築、1924年修復・再建）、分館（成瀬仁蔵旧宅、1901年建築）を見学させていただいた。歴史的建造物を外観だけではなく、建物内からも体感でき、歴史の重みを感じることができた。そして、成瀬記念館では「スポーツの秋！日本女子大学の運動会」が開催されており、学生参加型の展示（運動会弁当・運動着の再現等）を拝見でき、大変興味深かった。

#### むすび

北海道大学からはこれまで井上高聰助手（前125年史編集室助手、現大学文書館助手）が北海道大学125年史編集室の頃より個人会員として、2002年度総会・全国研究会の折には北海道大学百年記念会館を会場とする等の形で参加してきた。本年度総会・全国研究会への参加は、2005年5月1日に学内共同教育研究施設として設置された北海道大学大学文書館が全国大学史資料協議会の会員校となつての初参加である。

今回の参加は、大学史資料を取り扱う者として、これから業務の上で非常に有意義で、勉強となるものであった。昨夏、北海道大学大学文書館では「北海道帝国大学における女性の入学」の調査を始めた。日本女子大学卒業者が入学者に多く含まれていたことから、日本女子大学成瀬記念館の皆さんに、調査協力（資料調査・資料提供）をしていただいている。日本女子大学の御協力を得る機会に恵まれたのも、全国研究会への参加の収穫である。

全国大学史資料協議会2005年度総会ならびに全国研究会記録

## 全国大学史資料協議会2005年度総会・全国研究会の記録

中央大学大学史編纂課 松 崎 彰  
桃山学院史料室 西 口 忠

### 1.はじめに

2005年10月5日(水)から同7日(金)までの3日間、「全国大学史資料協議会2005年度総会ならびに全国研究会」を開催した。東日本部会担当となる本年度の全国大会は、慶應義塾と日本女子大学とを会場とし、「大学史資料の公開と活用」を全国研究会統一テーマとして掲げた。このテーマには、過去10年にわたる東西両部会の活動を振り返り、今一度、活動の基本である資料問題をとりあげることによって、新たな一步を踏み出す起点としたいという願いがこめられている。いいかえれば、「活動の原点を再確認する」必要性を強調するために設定されたテーマであるといえる。

統一テーマにもとづき、各報告の主題（サブテーマ）も検討された。すなわち、大学史資料の公開・活用方法として、最も一般的な「閲覧・レファレンス」・「年史編纂」・「展示」の3方法の具体例を報告し、討論の手がかりをつかもうと考えたのである。そのため、討論の方式も再検討し、分科会方式の弱点を克服するために、参加者全員が同じ会場で同時進行で討論に参加できるよう、討論方式を工夫した。

大会運営については、東日本部会幹事会中に大会実行委員会を設けて準備作業を進め、事前に報告者・司会者による準備報告会も開催して万全を期したが、後述するように、多くの課題を残したことでも事実であり、東西両部会共に今後の活動を通じて課題克服に取り組んで行きたい。

### 2.全国役員会

10月5日(水)13時から、慶應義塾三田キャンパス東館8階ホールにて全国協議会役員会を開催した。出席は、東日本部会が神奈川大学（監査委員）、慶應義塾（副部会長・会計委員）、國學院大學（会計委員）、駒澤大学（運営委員）、中央大学（運営委員・事務局）、

東海大学（運営委員）、東京経済大学（運営委員）、東洋大学（研究委員会）、武蔵野美術大学（運営委員・事務局）、明治大学（部会長）、西山伸氏（運営委員）、西日本部会が関西学院（部会長校）、甲南大学（副庶務校）、同志社大学（会計校）、桃山学院（庶務校）、立命館（監査校）であった。

はじめに、議題(1)「2005年度総会・全国研究会の運営について」を審議し、東日本部会事務局校より「役割分担案」にもとづいて説明があった後、挨拶・受付・司会・マイク等の担当者を定め、会場を設営した。次に、議題(2)「2005年度の東西両部会の共同事業について」を審議し、『研究叢書』第7号につき、全国研究会の主催部会と研究叢書の編集担当部会を同一にするため、第7号の編集担当を東日本部会とし、総会の承認を得ることを申し合せた。また、協議会の統一的なホームページを制作する件につき、総会の承認を得た上で、各部会幹事会に検討会を設け、準備作業に着手することを決定した。なお、西日本部会庶務校より、次年度の「総会および全国研究会」を西日本部会担当とし、広島大学にて開催する予定であるとの報告があった。最後に、議題(3)「その他」を審議し、東日本部会事務局より、企業史料協議会から依頼のあった「中国档案学会訪日団」の件、及び全史料協関東部会から依頼のあったシンポジウム「歴史文化資産のリスクマネジメントとネットワークを考える」後援の件について経過説明があり、Eメールと電話を利用して東西両部会幹事会の了承を得た上で、両機関に協力したとの報告があった。また、東日本部会幹事会の案件として、北海道大学大学文書館の協議会入会（東日本部会）と、個人会員井上高聰氏（北海道大学）の退会を承認した。

### 3.総会・記念講演

同日14時20分より2005年度総会を開催した。

はじめに、協議会会长校である明治大学の鈴木秀幸氏より開会挨拶があり、引き続き総會議長・副議長の選出をおこない、議長に神奈川大学の澤木武美氏、副議長に広島大学の小宮山道夫氏を選出して議事に入った。

議題(1)「全国大学史資料協議会役員会の報告について(承認事項)」の審議では、事務局より全国役員会での審議経過が報告され、次年度の両部会共同事業として、『研究叢書』第7号刊行の件が提起されるとともに、全国大会開催と叢書編集の担当部会を一致させるため、同第7号の編集は引き続き東日本部会が担当するとの説明があった。次に、「協議会ホームページ」制作の件が提案され、各部会にて検討の上、共同のホームページを制作したいとの説明があった後、両議案とも全会一致で承認された。議題(2)「2005年度東西両部会事業計画報告(報告事項)」の審議では、東日本部会事務局・西日本部会庶務から、配布資料に基づいて両部会の本年度事業計画が報告され、了承された。また、東日本部会より、Eメールを利用したメール・マガジンを創刊するにあたって、購読希望者の募集があった。議題(3)「その他」の審議では、西日本部会庶務より、来年度の総会および全国研究会を、西日本部会担当とし、広島大学にて開催する予定であるとの報告があった。

総会終了後、15時より記念講演を開催した。講演に先立ち、慶應義塾福澤研究センター所長小室正紀氏より会場挨拶があり、引き続き同氏の講演「近代日本研究と慶應義塾福澤研究センター」と、西澤直子氏（慶應義塾福澤研究センター助教授）の講演「『150年史資料集』編纂作業と資料整理」が、記念講演として報告された。

小室報告は、福澤研究センターの長期にわたる活動を踏まえた上で、その役割と特色を次の四点に集約して説明された。すなわち、同センターは学校史（塾史）を研究・継承するための機関である点に特色をもち、その成果を近代日本研究に結び付けて行くことを目標とする点に第2の特色を持つ機関である。また、これらの特色に加えて、教育機関としての機能も拡大しつつあり、さらには、対外的な資料・情報提供サービスも増大していると指摘し、具体的な活動内容を紹介しつつ同センターの果たす機能を総括された。最後に、

同センターの組織・体制につき、現状を紹介して報告を結んだ。

西澤報告は、同センターに所蔵されている「福澤諭吉関係資料」・「慶應義塾関係資料」他の資料を紹介しつつ、諸資料の受入れ・整理作業に言及し、活動の実態を説明された。また、現在着手されている『創立150年史資料集』の編纂作業と、その過程で直面している問題点等を詳細に解説した上で、活動全般の総括と今後の課題を指摘し、University Archives としての機能やスタッフの充実を目指として掲げ、報告を終えた。

以上、両講演の詳細については、来年度刊行予定の『研究叢書』第7号に収録が予定されている両氏の論考を参照されたい。また、総会の司会進行は中央大学松崎彰氏（東日本部会事務局）・桃山学院西口忠氏（西日本部会庶務）であった。

講演終了後、福澤記念室・三田演説館等を自由見学し、17時30分より慶應義塾三田キャンパス北館1階「ザ・カフェテリア」において、情報交換会を開催した。交換会は、市古健次氏（慶應義塾福澤研究センター）の会場挨拶、副会長花田司氏（関西学院）の挨拶、東田全義氏（東日本部会名誉会員）による乾杯の発声で始まり、会員間の和やかな会話や、新会員・新参加者の紹介や現状報告など、終始明るい雰囲気の中で親睦を深め、かつ情報交換をおこなった。閉会の辞は、原登久雄氏（元桃山学院年史委員会）、司会は西口忠氏（桃山学院）であった。（参加者・75名）

#### \*配布資料\*

1. 「全国大学史資料協議会2005年総会ならびに全国研究会プログラム」  
(東西部会2005年度事業計画書・参加者名簿を含む)
2. 「近代日本研究と慶應義塾福澤研究センター」（講演レジュメ）
3. 「『150年史資料集』編纂作業と資料整理」（講演レジュメ）
4. 『福澤研究センター通信』第2号・第3号
5. 「福澤記念室展示リスト」
6. 「KEIO UNIVERSITY」（パンフレット）
7. 「慶應義塾大学 CAMPUS GUIDE」（リーフレット）
8. 「名古屋大学大学文書資料室」（リー

フレット)

#### 4. 全国研究会

翌10月6日(木)10時より、慶應義塾三田キャンパス東館8階ホール(大会議室)において全国研究会を開催した。開会にあたって協議会副会長校花田司氏(関西学院)から挨拶があり、続いて事務局松崎彰氏(中央大学)より統一テーマの発題があった。今年度の統一テーマは、わたし達の活動の原点である大学史資料の問題を改めて取り上げ、その公開と活用について討議するために3つの報告を設定した。第1は、大学史資料の閲覧・レファレンスをめぐる報告、第2は、年史編纂における資料活用を考える報告、第3は、資料展示での活用を論じた報告である。また、今回の研究会では、全員が全ての報告を聞いた上で討議ができるよう、三報告終了後に総括討論の時間が設定されているとの説明があった。

第1報告は、谷本宗生氏(東京大学)「東京大学史史料室の閲覧及びレファレンス対応」であった。谷本氏は、同史料室における資料閲覧の状況や件数を具体的に紹介し、所蔵資料の利用のされ方や閲覧への対応を詳細に説明すると共に、資料閲覧への対応が業務中大きな比重を持っている点を強調された。また、電話・ファックス・手紙等による照会への対応業務も重要であり、所蔵資料中のデータを担当室員がどのように提供して行くのかという問題が問われているとした。そして、これら多様な資料利用の希望に対して、所蔵資料の性格や状態を考慮しつつ柔軟に対応しなければならないと指摘して報告を結んだ。報告後、柔尾光太郎氏(東京経済大学)を司会として質疑応答がおこなわれ、他大学における状況なども紹介された。

第2報告は、田渕正和氏(日本大学)「日本大学の年史編纂事業と日本大学資料館設置準備室の設置」であった。田渕氏は、同大学創立以来の年史編纂事業を概観し、各事業における編纂体制と資料の収集・保存状況を詳細に紹介された。それらの資料は、年史関係の様々な出版物に利用され継承されて行くわけであるが、現在、同大学では、百年史編纂事業の過程で収集された大学史資料を継承・活用するための機関として「日本大学資料館」の設立が構想され、同館の設置準備室に一部

資料が移管された上で、各種刊行物の出版・資料展示・教育活動等に利用されている。将来的には、資料館による資料情報の一元化が課題になると指摘して報告を結んだ。報告後、皆川義孝氏(駒澤大学)を司会として質疑応答がおこなわれ、現在の設置準備室の組織や活動について質問が出された。

第3報告は、小枝弘和氏(同志社)「同志社関係資料と Neesima Room」である。小枝報告は、大学史資料活用の手段としての展示を論じた報告であり、同志社社史資料センターが開催した全28回の企画展を概観しつつ、テーマ設定から展示設営にいたる作業の実態や注意点などを、展示写真を用いて具体的に解説した。その上で、展示資料の不足といった課題は、大学間のネットワークと信頼を築くことができれば克服可能となるとの展望を指摘して報告を結んだ。報告後、佐伯裕加恵氏(神戸女学院)を司会として質疑応答がおこなわれ、企画展テーマとして創立者(新島襄)と学校(同志社)との関係をどう考えるか等の問題が討議された。

三報告に続き、益井邦夫氏(國學院大學)・西口忠氏(桃山学院)を司会として総括討論が開催された。本来、この総括によって大学史資料の基本的性格を討議する予定であったが、各報告者への質問と補足説明を受けた時点で時間切れとなり、司会より「今大会のテーマは、私達の活動の根幹にかかる重要な問題であり、今後とも継続的に取り上げたい」旨を宣言して総括討論を終えた。その後、協議会会長校鈴木秀幸氏(明治大学)より挨拶があり、閉会となった。

なお、全国研究会における各報告と討議の詳細については、来年度刊行予定の『研究叢書』第7号収録の各論考を参照されたい。また、東日本部会幹事会では、今回の研究会開催にあたり、2005年9月22日(木)に上記の報告者・司会者による準備会を開催し、運営に万全を期したが、全員参加の討議方式の難しさもあり、多くの課題を残した。そのため、2005年12月7日(水)開催の第68回幹事会において全国大会の総括と反省会を開き、諸問題点を指摘・検討の上、次回を期した。当日、話し合われた主な課題は、以下の通りである。

\*開催計画を早期に立案し、会場確保・講

師依頼等に支障が出ないよう配慮する必要がある。

\*運営実務が一部の担当に集中しないよう、担当を公平に分担し、実務範囲を明確化しておく必要がある。

\*大会報告のリハーサルは必要である。

\*配布資料を事前に揃えるよう努力する。

\*発表時間のオーバー等による、スケジュールの遅延を防ぐ対策を検討する必要がある。

\*議論がより活発に展開するように、質問の受け方・指定発言の方法・テーマの総括の仕方等について、検討を加える必要がある。

\*会計委員校慶應義塾・國學院大學より会計報告があり、検討の結果、参加費中に含まれている「大会記録出版費用」を明示する必要がある点を確認した。

翌10月7日(金)は、日本女子大学に会場を移して見学会を開催した。参加者は2班に分れ、成瀬記念講堂の常設展示と企画展示「スポーツの秋！日本女子大学の運動会展」を見学し、資料活用の実例を学ぶと共に、同大学創立者成瀬仁蔵氏の旧宅や成瀬記念講堂を訪れ、詳細な解説をお聞きしながら、歴史的遺物の保存事例を拝見した。当日の配布資料は以下の通りであった。

(配布資料)

1. 「日本女子大学成瀬記念館」(パンフレット)
2. 「成瀬記念館分館のしおり」
3. 「成瀬記念講堂」(パンフレット)
4. 「日本女子大学成瀬記念館西生田記念室」(パンフレット)
5. 「日本女子大学成瀬記念館 展示一覧」(レジュメ)
6. 「日本女子大学成瀬記念館 MUSEUM CALENDAR 展示のご案内」
7. 「スポーツの秋！日本女子大学の運動会展」(リーフレット+関係年表)
8. 「日本女子大学成瀬記念館絵葉書」
9. 「酒井シヅ編『女医吉岡彌生の手紙 愛と至誠に生きる』」(パンフレット)

## 5. 参加者

大会参加者は、以下の通りであった。

## <東日本部会>

愛知大学 神奈川大学 関東学院

慶應義塾 恵泉女子学園 皇學館

國學院大學 国士館 駒澤大学

上智大学 成蹊学園 専修大学

創価大学 拓殖大学 多摩美術大学

中央大学 東海大学 東京基督教大学

東京経済大学 東京女子医科大学

東京農業大学 東北学院 東洋英和女学院

東洋大学 日本女子大学 日本大学

北海道大学 宮城学院 武藏学園

武藏野美術大学 明治大学

東田 全義(名誉会員・元慶應義塾)

小川千代子(国際資料研究所)

谷本 宗生(東京大学)

中村 賴道(企業史料協議会)

西山 伸(京都大学)

堀田慎一郎(名古屋大学)

オブザーバー：平井 孝典(小樽商科大学)

## <西日本部会>

大阪大学 大谷大学 関西学院

近畿大学 甲南大学 神戸松蔭女子学院

神戸女学院 聖和大学 同志社女子大学

同志社大学 長崎大学 名古屋大学

南山学園 広島大学 福岡大学

桃山学院 立命館 龍谷大学

橋本 弘之(元立命館百年史編纂室)

原 登久雄(元桃山学院年史委員会)

山口 拓史(名古屋大学大学文書資料室)

## \*総計

### 西日本部会分

〈機関〉 18校(20名) 〈個人〉 3名

〈合計〉 23名

情報交換会…20名

### 東日本部会分

〈機関〉 29校(55名) 〈個人〉 5名

〈名誉会員他〉 2名

〈合計〉 62名

情報交換会…55名

## <会場校>

小室 正紀氏

(慶應義塾福澤研究センター所長)

最後に、大会開催にあたり、会場の確保や記念講演の開催等、多大なご尽力を賜った慶應義塾福澤研究センターと日本女子大学成瀬記念館の皆様に心から御礼申しあげます。

2005年12月7日(水) 研究会

## 伊藤昌弘氏「成蹊学園史料館概要について」及び 「成蹊学園史料館資料整理・調査方法について」を聞いて

日本女子大学成瀬記念館 小橋 安紀子

第48回全国大学史資料協議会東日本部会研究会は、2005年12月7日(水)に成蹊学園史料館で開催され、史料館事務局である成蹊学園総務部広報課の課長伊藤昌弘氏による報告を伺った。

1988(昭和63)年に竣工の同史料館は、落ち着いた色調のモダンなたたずまいが、開館当初から緑の多いキャンパスによくなじんでいた。創立者の記念館でもあるということで、準備段階から成瀬記念館へは問い合わせ等をいただいていたが、やがて開館展示のご案内を受け、スタッフそろって見学に伺ったのがまるで昨日のことのようである。

当館の方は開設以来、創立者の記念館・学園の史料館として運営してきたが、ここへ来て新たに大学アーカイブスとして機能することを求められている。そこで同種の施設と考えてきた成蹊学園史料館の、近年におけるめざましい勢いで組織整備と、学内資料調査システムの構築に関する実際を直に伺いたく、伊藤氏のお話に耳を傾けた。

報告は「成蹊学園史料館概要について」と「成蹊学園史料館資料整理・調査方法について」という2タイトルに絞って行われた。

「概要について」は、(1) 成蹊学園の歴史について (2) 史料館開館までの経緯 (3) 史料館の組織 (4) 展示室について (5) 業務内容について、の解説であったが、そこで出席者から特に注目されたのが(3)史料館の組織についてである。当然のことではあるが、大学文書館はそれが当該大学組織のどこに位置づけられるかによって、館の成長発展の筋道が変わるものである。

成蹊学園史料館は5年前に学園に総務部広報課ができたことにより位置づけが変わり、以後理事長が任命する館長のもと、運営委員会で基本的事項の審議をおこない、事務の全てが広報課の所管となった。また、来る2012年に100年史を刊行すべく現在精力的に進めている学内外の史資料の収集・調査等は、自治体史や大学史編纂の経験者を専門会社より



報告する伊藤昌弘氏

採用し、作業のかなりの部分をその手に委ねているとのことであった。史資料に関する要の仕事を学外の専門家に委ねることについては出席者に理解しにくい面もあり質問も出たが、「学外者とは考えていない」、(資料整理の方法等)「それ以前のことは無かったこととして進めている」との伊藤氏の率直な回答から、同館の歴史的経緯において最も無理が少なく、迅速に仕事を進めやすい方法であったことが理解された。

二つ目のタイトル「成蹊学園史料館資料整理・調査方法」では、(1) 資料受け入れ手順と(2) 学内資料調査手順についての具体的な紹介が行われた。(1)では、受け入れ票の作成、データ入力、ラベル貼付、燻蒸処理、アーカイブボックス等への収納と、資料受け入れ手順が確立していることが図表で示された。(2)では学内資料の散逸を防ぐため、各部署の所蔵資料を調査・入力し、各資料の所在を明らかにすると共に、データベースで重複資料の有無をチェックし各部署に廃棄可能なものを知らせていること、また近い将来、半現用資料等を中間保管場所で管理する構想のあること等が報告された。

学内各部署の所蔵資料の調査という難問を、調査目的の設定と調査方法の工夫によって解決されたことに敬服すると共に、当館の状況を省みて大変複雑な思いに駆られた。実に示唆に富む刺激的な報告であった。

2006年1月26日(木) 研究会

## 「進行形」の文書館 －埼玉県立文書館見学会に参加して－

武蔵野美術大学大学史史料室 石 田 順 二

2006年1月26日、第49回東日本部会研究会として埼玉県立文書館を見学した。重田正夫副館長からご挨拶を戴いた後、引き続き同館とその業務について説明があった。その後2班に分かれ、重田副館長と白井哲哉主任学芸員の説明により見学した。

同館は1969年に県立図書館文書館として設置された。文書館としては山口県文書館に次ぎ、全国的にはかなり早い時期の設立となる。1975年には図書館から分離し埼玉県立文書館として独立する。1983年には独立館舎が竣工し、1992年には地図センターが設置され、1995年には史料編さん課が設置されている。

収蔵史(資)料は、原文書として行政文書(行政資料を含む)、民間所在史料(古文書、地図、古写真など)があり、複製文書として県史編纂史料、各種調査収集資料(古文書所在確認調査、寺社古文書調査、重要古文書複本作成事業など)があり、他に郷土史、各自治体史等の参考図書、雑誌等がある。民間所在史料の中では、埼玉新聞社の戦後報道写真ネガフィルムや、国土地理院や県市町村の作成地図、ほぼ5年おきに県が撮影してきた航空写真等が特筆される。報道写真、航空写真は展示で有効に活用されていた。また地図は閲覧の人気が高く、地図室の年間閲覧者数は文書室のそれより上回っていた。なお行政文書の90%は写真版を作成し閲覧に供している。古文書も30万件、マイクロフィルム化されており原本の閲覧による劣化を防いでいる。更に史(資)料は、デジタル化へ向けての検討が進んでいるとのことであった。

埼玉県立文書館は設置後35年を超えた言わば「先達」の文書館だが、今なお「進行形」である印象を受けた。資(史)料の整理・保存・利用方法はいったん確立してしまうと、継続性、一貫性の名の下、ともすれば固定化し目的化してしまいがちである。しかし同館は少し先とかなり先の両方を見据えながら進んでいるようにみえた。それは同館の使命が、設置時以来、館内で明確に共有されてきてい



書庫を案内する重田正夫副館長

るからではないだろうか。即ち、所蔵史(資)料が県民の共有財産であり、同館は県民の記憶装置として現在及び将来の県民への説明責任を果たす機関であるということである。その意志は、展示であればその内容や展示方法に、普及活動であれば館内での体験学習、館外への講師派遣、資料紹介印刷物等に伺える。それらの活動の充実は、文書以外の親しみやすい資料等の豊富さ故というよりは、館の使命を念頭に置いた上で、利用に向け何が有効か、それをどうするのが有効なのかを模索してきた結果によるものではないだろうか。文書館設置以前、埼玉県内部に歴史資料の保存と活用へ向けての気運もあったであろうし、文書館や地図センターの設立に向け県議会へ請願を行った県図書館協会、県地域研究会、埼玉県地理学会などの外部からの働きかけもあったであろう。しかし設置後の不断の努力がなくては現在の充実した文書館はありえない。「進行形」の文書館であることに敬意を表すると同時に、翻って私の職場である大学アーカイブズの使命とは何かを改めて思い起こさせられた見学会であった。

最後に、今回の研究会のために、所蔵している大学関係史料から8大学の史料を研修室隣室に特別に展示していただいたことも記し、埼玉県立文書館の皆さんに謝意を述べたい。

**全国大学史資料協議会2005年度  
総会議事録・記念講演記録(抄)**

日 時 2005年10月5日(水)14時20分～19時  
 場 所 慶應義塾三田キャンパス東館8階  
         ホール(大会議室)  
         北館1階ザ・カフェテリア  
 出 席 (含全国研究会)  
         <東日本部会>  
             愛知大学 神奈川大学 関東学院  
             慶應義塾 恵泉女子学園 皇學館  
             國學院大學 国土館 駒澤大学  
             上智大学 成蹊学園 専修大学  
             創価大学 拓殖大学 多摩美術大学  
             中央大学 東海大学 東京基督教大学  
             東京経済大学 東京女子医科大学  
             東京農業大学 東北学院  
             東洋英和女学院 東洋大学  
             日本女子大学 日本大学  
             北海道大学 宮城学院 武藏学園  
             武蔵野美術大学 明治大学  
             東田 全義(名誉会員・元慶應義塾)  
             小川千代子(国際資料研究所)  
             谷本 宗生(東京大学)  
             中村 賴道(企業史料協議会)  
             西山 伸(京都大学)  
             堀田慎一郎(名古屋大学)  
             オブザーバー  
             平井 孝典(小樽商科大学)  
         <西日本部会>  
             大阪大学 大谷大学 関西学院  
             近畿大学 甲南大学  
             神戸松蔭女子学院 神戸女学院  
             聖和大学 同志社女子大学  
             同志社大学 長崎大学 名古屋大学  
             南山学園 広島大学 福岡大学  
             桃山学院 立命館 龍谷大学  
             橋本 弘之(元立命館百年史編纂室)  
             原 登久雄(元桃山学院年史委員会)  
             山口 拓史  
             (名古屋大学大学文書資料室)

\* 総計

西日本部会分

〈機関〉 18校(20名) 〈個人〉 3名

〈合計〉 23名

情報交換会…20名

東日本部会分

〈機関〉 29校(55名) 〈個人〉 5名

〈名誉会員他〉 2名

〈合計〉 62名

情報交換会…55名

<会場校>

小室 正紀氏

(慶應義塾福澤研究センター所長)

開 会 司会 中央大学 松崎 彰氏

(東日本部会事務局)

桃山学院 西口 忠氏

(西日本部会庶務)

開会挨拶 明治大学 鈴木 秀幸氏(会長校)

議長選出

議 長 神奈川大学 澤木 武美氏

副議長 広島大学 小宮山道夫氏

議 題

1. 全国大学史資料協議会役員会の報告について(承認事項)

事務局(中央大学松崎彰氏)より、全国役員会での審議経過が報告され、次年度の両部会共同事業として、『研究叢書』第7号刊行の件が提起されるとともに、全国大会開催と叢書編集の担当部会を一致させるため、同第7号の編集は引き続き東日本部会が担当するとの説明があり、全会一致で承認された。

次に、「協議会ホームページ」制作の件が提案され、各部会にて検討の上、共同のホームページを制作したいとの説明があった後、全会一致で承認された。

2. 2005年度東西両部会事業計画報告(報告事項)

東日本部会事務局(中央大学松崎彰氏)・西日本部会庶務(桃山学院西口忠氏)から、配布資料に基づいて両部会の本年度事業計画が報告され、了承された。また、東日本部会より、

Eメールを利用したメール・マガジンを創刊するにあたって、購読希望者の募集があった。

### 3. その他

西日本部会庶務(桃山学院西口忠氏)より、来年度の総会および全国研究会は、西日本部会担当とし、広島大学にて開催する予定であるとの報告があった。

記念講演 15時00分～17時30分(公開講演)  
会場校挨拶 慶應義塾福澤研究センター所長  
小室 正紀氏

#### 講演 (1)

講 師 小室 正紀 氏  
(慶應義塾福澤研究センター所長)  
演 題 「近代日本研究と慶應義塾福澤研究センター」

#### 講演 (2)

講 師 西澤 直子氏  
(慶應義塾福澤研究センター助教授)  
演 題 「『150年史資料集』編纂作業と資料整理」

**概 要** 小室報告は、福澤研究センターの長期にわたる活動を踏まえた上で、その役割と特色を次の四点に集約して説明された。すなわち、同センターは学校史(塾史)を研究・継承するための機関である点に特色をもち、その成果を近代日本研究に結び付けて行くことを目標とする点に第2の特色を持つ機関である。また、これらの特色に加えて、教育機関としての機能も拡大しつつあり、さらには、対外的な資料・情報提供サービスも増大していると指摘し、具体的な活動内容を紹介しつつ同センターの果たす機能を総括された。最後に、同センターの組織・体制につき、現状を紹介して報告を結んだ。

西澤報告は、同センターに所蔵されている「福澤論吉関係資料」・「慶應義塾関係資料」他の資料を紹介しつつ、諸資料の受入れ・整理作

業に言及し、活動の実態を説明された。また、現在着手されている『創立150年史資料集』の編纂作業と、その過程で直面している問題点等を詳細に解説した上で、活動全般の総括と今後の課題を指摘し、University Archives としての機能やスタッフの充実を目標として掲げ、報告を終えた。

以上、両講演の詳細については、『研究叢書』第7号に収録予定の両氏の論考を参照されたい。

**見 学** 講演終了後、福澤記念室・三田演説館等を自由見学した。

**情報交換会** 同日 17時30分～19時

講演会終了後、17時30分から慶應義塾三田キャンパス北館1階「ザ・カフェテリア」において、懇親交流会を開催した。懇親会は、市古健次氏(慶應義塾福澤研究センター)の会場校挨拶、副会長花田司氏(関西学院)の挨拶、東田全義氏(東日本部会名誉会員)による乾杯の発声で始まり、会員間の和やかな会話や、新会員・新参加者の紹介や現状報告など、終始明るい雰囲気の中で親睦を深め、かつ情報交換をおこなった。閉会の辞は、原登久雄氏(元桃山学院年史委員会)、司会進行は西口忠氏(桃山学院)であった。(参加者・75名)

## 全国大学史資料協議会2005年度 役員会議事録 (抄)

(第67回全国大学史資料協議会東日本部会幹事会)

日 時 2005年10月5日(水)13時～13時40分  
場 所 慶應義塾三田キャンパス  
東館8階ホール(大会議室)  
出 席 <東日本部会>  
神奈川大学(監査委員)  
慶應義塾(副部会長・会計委員)  
國學院大學(会計委員)

駒澤大学（運営委員）  
 中央大学（運営委員・事務局）  
 東海大学（運営委員）  
 東京経済大学（運営委員）  
 東洋大学（研究委員会）  
 武蔵野美術大学（運営委員・事務局）  
 明治大学（部会長）  
 西山 伸（運営委員）  
 <西日本部会>  
 関西学院（部会長校）  
 甲南大学（副庶務校）  
 同志社大学（会計校）  
 桃山学院（庶務校）  
 立命館（監査校）

**議 題**

- (1) 2005年度総会・全国研究会の運営について
  - \*会の運営につき、「役割分担案」にもとづいて挨拶・受付・司会・マイク等の担当者を定め、会場を設営した。
- (2) 2005年度の東西両部会の共同事業について
  - \*『研究叢書』第7号につき、全国研究会の主催部会と研究叢書の編集担当部会を同一にするため、第7号の編集担当を東日本部会とし、総会の承認を得ることを申し合わせた。
  - \*協議会の統一的なホームページを制作する件につき、総会の承認を得た上で、各部会幹事会に検討会を設け、準備作業に着手することを決定した。
  - \*西日本部会庶務校（桃山学院）より、次年度の「総会および全国研究会」を西日本部会担当とし、広島大学にて開催する予定との報告があった。
- (3) その他
  - \*東日本部会事務局（中央大学）より、企業史料協議会から依頼のあった「中国档案学会訪日団」の件、及び全史料協関東部会から依頼の

あったシンポジウム「歴史文化資産のリスクマネジメントとネットワークを考える」後援の件について説明があり、Eメールと電話を利用して東西両部会幹事会の了承を得た上で、両機関に協力したとの報告があった。

\*北海道大学大学文書館の協議会入会（東日本部会）と、個人会員井上高聰氏（北海道大学）の退会を承認した。

### 全国大学史資料協議会 東日本部会幹事会議事録（抄）

第66回 2005年7月14日（木）14時～15時  
 場 所 拓殖大学  
 文京キャンパスA館会議室3階  
 出 席 神奈川大学 慶應義塾 國學院大學  
 駒澤大学 中央大学 東海大学  
 東京経済大学 武蔵野美術大学  
 明治大学  
 議 事
 

- (1) 2005年度全国大会の運営について<全国大会実行委員会>
- \*事務局中央大学より、全国大会開催をめぐる西日本部会との連絡状況について、報告があった。
- \*「全国大学史資料協議会2005年度大会日程（案）」を継続審議し、日程・司会・報告者等の概要を決定した。
- \*大会報告については、事前報告会を開いて司会・報告者間の意思疎通をはかることとした。
- \*7日（金）の見学会につき、候補3機関を決定し、早急に見学依頼の申請をおこなうこととした。
- (2) 2005年度部会研究会について
  - \*部会研究会の開催について審議し、本年12月の研究会は大学の資料保存をテーマとし、来年1月の研究会は大学以外の資料保存機関を見学、同3月の研究会は会員主体の

討論会を開催することとした。

(3) その他

- \*特別委員会西山委員長（京都大学）より、『日本の大学アーカイブズ』の編集状況と最終的な構成が報告され、本年11月末頃に納品となる予定との説明があった。
- \*編集委員校神奈川大学より、会報『大学アーカイブズ』No. 33の編集案が提起され、了承された。
- \*企業史料協議会から依頼のあった「中国档案学会訪日団」の件について、見学可能な2大学の資料館を推薦して協力することとした。

第68回 2005年12月7日(水) 11時～15時

場 所 成蹊学園史料館

出 席 神奈川大学 慶應義塾 國學院大學  
駒澤大学 中央大学 東海大学  
東京経済大学 東洋大学 日本大学  
武蔵野美術大学 明治大学

挨 拶 加藤 節氏（成蹊学園史料館長）

- 議 事 (1)2005年度全国大会の総括と反省会  
<全国大会実行委員会>
- \*全国大会終了と実行委員会解散にあたり、以下の問題点を検討して総括をおこなった。
- \*開催計画を早期に立案し、会場確保・講師依頼等に支障が出ないよう配慮する必要がある。
- \*運営実務が一部の担当に集中しないよう、担当を公平に分担し、実務範囲を明確化しておく必要がある。
- \*大会報告のリハーサルは必要である。
- \*配布資料を事前に揃えるよう努力する。
- \*発表時間のオーバー等による、スケジュールの遅延を防ぐ対策を検討する必要がある。
- \*議論がより活発に展開するように、質問の受け方・指定発言の方法・

テーマの総括の仕方等について、検討を加える必要がある。

- \*会計委員校慶應義塾・國學院大學より会計報告があり、検討の結果、参加費中に含まれている「大会記録出版費用」を明示する必要がある点を確認した。

(2) 2005年度部会研究会について

- \*2006年1月の研究会については、大学以外の資料保存機関を訪問し、その活動や資料保存の状況を学ぶ見学会とする。また、見学機関の候補を埼玉県立文書館とし、早急に申請をおこなうこととした。

- \*同年3月の研究会については、昨年と同様に全員参加型の討論会を開催することとした。テーマについては、『日本の大学アーカイブズ』を取り上げてはどうかとの意見が出され、次回幹事会にて決定することとした。

(3) その他

- \*特別委員会村松玄太委員(明治大学)より、『日本の大学アーカイブズ』の出版予定(12/20)と部数(1,000部)が報告された。
- \*編集委員校東海大学より、次号『研究叢書』の編集方針につき報告があり、録音テープの取り扱い等について検討した。

第69回 2006年1月26日(木) 13時～15時

会 場 埼玉県立文書館3F研修室

出 席 神奈川大学 慶應義塾 國學院大學  
駒澤大学 中央大学 東海大学  
東京経済大学 日本大学  
武蔵野美術大学 明治大学  
豊田徳子 西山 伸

議 事 (1) 2005年度部会研究会について

- \*本年3月開催予定の研究会について審議し、昨年と同様に、出席者全員が討論に参加する方式の研究会を開催することとした。

\*研究会の内容は、昨年末に刊行された『日本の大学アーカイブズ』の合評を中心とし、ナビゲーターが問題を提起しつつ各会員の意見や質疑を整理し、今後の活動に寄与する成果を得られるよう努めることとした。

(2) 2006年度の部会運営について

\*前回の審議をふまえ、各役員の責任範囲の明確化と業務分担の平均化とを基本とする運営体制をとることとした。そのため、本年3月で任期終了となる各委員会を継承せず、必要なプロジェクトごとにチームを編成する方式をとりながら、今後の部会運営を検討することを確認した。

\*会長校（明治大学）より、次年度のプロジェクトとして東日本部会20年史の編集案が提起され、了承された。また、同プロジェクトのチーフとして村松玄太氏（明治大学）が、委員として益井邦夫氏（國學院大學）・澤木武美氏（神奈川大学）が選出され、事業計画を次年度部会総会に提案し、承認を受けることとした。

(3) その他

\*事務局（中央大学）より、協議会ホームページ制作につき、西日本部会より検討の要請があった旨報告があり、審議の結果、次回幹事会より具体的な検討作業に着手することとした。

\*事務局（中央大学）より、会員や関係諸機関以外への『研究叢書』頒布方法につき検討依頼があり、審議の結果、制作費より算出した単価と送料負担にて頒布することとした。

\*編集委員校神奈川大学より、会報『大学アーカイブズ』No.34 の構成案が提起され、了承された。

\*編集委員校東海大学より、『研究叢書』の編集状況が報告された。

\*会長校（明治大学）より、東日本部会20年史編集プロジェクトに連動させて「大学史展」を開催し、西日本部会と共に協議会の活動を広報すると共に、自らの自覚をも高めるプロジェクトの必要性が提起され、継続して検討することとした。

### 全国大学史資料協議会 東日本部会研究会記録（抄）

第45回 2005年3月17日(木)

14時30分～16時30分

場 所 東洋大学 甫水(ほすい)会館

4階401号室

出 席 神奈川大学 慶應義塾 皇學館  
國學院大學 上智大学 成蹊学園  
中央大学 東海大学 東京経済大学  
東洋大学 日本大学 明治大学  
武藏野美術大学 立教女学院  
青柳小百合(株・ニチマイ)  
小田部朋信(株・ニチマイ)  
谷本 宗生(東京大学史史料室)  
西山 伸(京都大学大学文書館)  
東田 全義(名誉会員)  
オブザーバー 飯田 範子(筑波大学)  
(以上28人)

開会挨拶 鈴木 秀幸氏（会長校・明治大学）

討論会 「大学史資料について考えよう」

司会 松崎 彰氏

(中央大学大学史編纂課)

概 要 今回は、従来実施してきた見学や発表というスタイルの研究会とは異なるものを研究委員会が発案・企画した。当日は、中央大学の松崎彰氏の進行司会のもとで、研究会に参加した各大学の担当者が、日常の仕事として収集・整理・保存をおこなっている大学史資料に関する諸問題について、全員参加型で話し合うスタ

イルの討論会を試みた。

大学史資料といつても、近年は、その出所、内容、形態などが多様である。そこで、当時は、大学史資料を、事務文書など、学内から作り出され、恒常的収集が可能な資料と、収集にあたって特別な調査等が必要な新聞その他の学外資料に大別して、各大学からそれぞれ取り組んでいる実情を紹介してもらった。

学内資料については、明治大学、國學院大學、東京大学、京都大学、東海大学、皇學館大学、武藏野美術大学、成蹊大学などの実態が紹介された。各大学により、状況は異なったが、文書保存規程があつても、それが直ちに有効に機能するものではないこと、資料収集の目的・理念を明確にしたうえでの学内コンセンサスの重要性や学内各部署との相互友好関係の樹立などが強調された。資料を無理に一箇所に集中保管するより、学内の資料情報を共有することがまず肝要であることも、各大学で共通して認識されているようであった。

学外資料については、神奈川大学から新聞記事、東京経済大学から卒業生・旧教職員からの聞き取りについての紹介があった。また、学校創設および創立者関係の資料収集に力を入れている大学として、日本大学、慶應義塾大学のほか、ミッション系の上智大学、立教女学院などからそれぞれの実情紹介がなされた。

近年の大学史資料収集は、その大学の目的や性格により、収集する資料がかなり異なるのであり、单一モデルのアーカイブズ論を尺度にすることはできない。また、資料収集・保存にあたって、文書作成段階から保存を視野に入れていく、文書のライフサイクル論的アプローチの必要

性なども指摘された。各大学の資料をめぐっての実情が率直に紹介され、きわめて興味深かつたし、多くの指針も得られた。今回の試みは、いわば大学史資料協議会発足の原点の精神に戻って考えるものであり、今後、各大学の実態を踏まえて、今回のよる全員参加型の情報交換と討議が継続的になされていくことの必要性を当日の参加者全員が改めて認識した。

(中村 青志)

第46回 2005年7月14日(木) 15時～17時

場 所 拓殖大学

文京キャンパスA館会議室3階

出 席 神奈川大学 慶應義塾 皇學館

國學院大學 国士館 駒澤大学

上智大学 成蹊学園 専修大学

創価大学 拓殖大学 中央大学

東海大学 東京基督教大学

東京経済大学 日本女子大学

日本大学 武藏野美術大学

明治大学

青柳小百合(株・ニチマイ)

西山 伸(京都大学大学文書館)

オブザーバー

小田部朋信(株・ニチマイ)

(以上32人)

開会挨拶 鈴木 秀幸氏(会長校・明治大学)

会場校挨拶 福田 勝幸氏

(拓殖大学常務理事・同創立百年  
史編纂室長)

報 告 斎藤 高夫氏

(拓殖大学創立百年史編纂室)

「拓殖大学における百年史編纂事業  
の経過報告」

概 要 今回の研究会は、年史編纂事業を基本テーマとして開催した。斎藤氏は、拓殖大学百年史の編纂事業を、(1)編纂体制、(2)編纂の目的と成果、(3)実現手段としての資料収集、という三つの側面から紹介した。

はじめに、同大学における60年史

以降の編纂事業が概観されるとともに、事務組織と研究組織の連携を特色とする現行の百年史編纂体制が紹介された。続いて、刊行物を編纂する目的に言及され、全体としての主題を「アジア社会の近代化と拓殖大学」と設定した経緯を説明した上で、通史・部局史・資料集・写真集等の刊行物に主題をどのように反映させて行くかという問題を取り上げ、各刊行物の編集作業を具体的な事例として詳細に展開された。この作業は、大学の歴史を日本近代史上に位置付けるため、避けて通れない作業であるといえる。

また、主題を実現させるためには、分析の基礎を支える資料収集が不可欠となるが、その体制や調査対象も上記の主題に対応したコンセプトにもとづいて計画され、実行に移されている点が印象的であった。なかでも、韓国・イギリス・アメリカ・中国・台湾・ロシア等の海外調査については、長谷部茂氏（拓殖大学）の補足説明もあり、史料収集を重視する同大編纂事業の基本姿勢を象徴する内容であった。

（松崎 彰）

#### 第47回東日本部会研究会

（全国大学史資料協議会2005年度全国研究会）

テーマ 「大学史資料の公開と活用」

日 時 2005年10月6日(木)～7日(金)

会 場 10月6日(木)

慶應義塾三田キャンパス

東館8階ホール（大会議室）

10月7日（金）

日本女子大学 成瀬記念館

活動記録 10月6日(木)10時、慶應義塾三田

キャンパス東館8階ホール（大会議室）において全国研究会を開催した。

開会にあたって協議会副会長校花田

司氏（関西学院）から挨拶があり、

続いて事務局松崎彰氏（中央大学）

より統一テーマの発題があった。今年度の統一テーマは、わたし達の活動の原点である大学史資料の問題を改めて取り上げ、その公開と活用について討議するために3つの報告を設定した。第1は、大学史資料の閲覧・レファレンスをめぐる報告、第2は、年史編纂における資料活用を考える報告、第3は、資料展示での活用を論じた報告である。また、今回の研究会では、全員が全ての報告を聞いた上で討議ができるよう、三報告終了後に総括討論の時間が設定されているとの説明があった。

第1報告は、谷本宗生氏（東京大学）「東京大学史史料室の閲覧及びレファレンス対応」であった。谷本氏は、同史料室における資料閲覧の状況や件数を具体的に紹介し、所蔵資料の利用のされ方や閲覧への対応を詳細に説明すると共に、資料閲覧への対応が業務中大きな比重を持っている点を強調された。また、電話・ファックス・手紙等による照会への対応業務も重要であり、所蔵資料中のデータを担当室員がどのように提供して行くのかという問題が問われているとした。そして、これら多様な資料利用の希望に対して、所蔵資料の性格や状態を考慮しつつ柔軟に対応しなければならないと指摘して報告を結んだ。報告後、桑尾光太郎氏（東京経済大学）を司会として質疑応答がおこなわれ、他大学における状況なども紹介された。

第2報告は、田渕正和氏（日本大学）「日本大学の年史編纂事業と日本大学資料館設置準備室の設置」であった。田渕氏は、同大学創立以来の年史編纂事業を概観し、各事業における編纂体制と資料の収集・保存状況を詳細に紹介された。それらの資料は、年史関係の様々な出版物に

利用され継承されて行くわけであるが、現在、同大学では、百年史編纂事業の過程で収集された大学史資料を継承・活用するための機関として「日本大学資料館」の設立が構想され、同館の設置準備室に一部資料が移管された上で、各種刊行物の出版・資料展示・教育活動等に利用されている。将来的には、資料館による資料情報の一元化が課題になると指摘して報告を結んだ。報告後、皆川義孝氏（駒澤大学）を司会として質疑応答がおこなわれ、現在の設置準備室の組織や活動について質問が出された。

第3報告は、小枝弘和氏（同志社）「同志社関係資料と Neesima Room」である。小枝報告は、大学史資料活用の手段としての展示を論じた報告であり、同志社社史資料センターが開催した全28回の企画展を概観しつつ、テーマ設定から展示設営にいたる作業の実態や注意点などを、展示写真を用いて具体的に解説した。その上で、展示資料の不足といった課題は、大学間のネットワークと信頼を築くことができれば克服可能となるとの展望を指摘して報告を結んだ。報告後、佐伯裕加恵氏（神戸女学院）を司会として質疑応答がおこなわれ、企画展テーマとして創立者（新島襄）と学校（同志社）との関係をどう考えるか等の問題が討議された。

三報告に続き、益井邦夫氏（國學院大學）・西口忠氏（桃山学院）を司会として総括討論が開催された。本来、この総括によって大学史資料の基本的性格を討議する予定であったが、各報告者への質問と補足説明を受けた時点で時間切れとなり、司会より「今大会のテーマは、私達の活動の根幹にかかる重要な問題であり、今後とも継続的に取り上げた

い」旨を宣言して総括討論を終えた。その後、協議会会长校鈴木秀幸氏（明治大学）より挨拶があり、閉会となった。

なお、全国研究会における各報告と討議の詳細については、来年度刊行予定の『研究叢書』第7号収録の各論考を参照されたい。また、東日本部会幹事会では、今回の研究会開催にあたり、2005年9月22日（木）に上記の報告者・司会者による準備会を開催し、運営に万全を期したが、全会員参加の討議方式の難しさもあり、多くの課題を残した。そのため、2005年12月7日（水）開催の第68回幹事会において、全国大会の総括と反省会を開き、諸問題点を検討した点を付記しておく。

翌10月7日（金）は、日本女子大学に会場を移して見学会を開催した。参加者は2班に分れ、成瀬記念講堂の常設展示と企画展示「スポーツの秋！日本女子大学の運動会展」を見学し、資料活用の実例を学ぶと共に、同大学創立者成瀬仁蔵氏の旧宅や成瀬記念講堂を訪れ、詳細な解説をお聞きしながら、歴史的遺物の保存事例を拝見した。

末筆ながら、成瀬記念館の皆様に心から御礼申します。（松崎 韶）

第48回 2005年12月7日（水）15時～17時  
 会 場 成蹊学園史料館  
 出 席 神奈川大学 慶應義塾 國學院大學  
           駒澤大学 自由学園 上智大学  
           専修大学 創価大学 中央大学  
           東海大学 東京経済大学  
           東京農業大学 東洋英和女学院  
           東洋大学 獨協学園 日本女子大学  
           日本大学 武蔵学園 武蔵野美術大学  
           明治大学 立教大学  
           東田 全義（名誉会員）  
           青柳小百合（株・ニチマイ）

オブザーバー

九鬼 弘一(同志社社史資料センター)  
(以上36人)

**報 告** 伊藤 昌弘氏(成蹊学園総務部広報課)  
「成蹊学園史料館概要について」及び「成蹊学園史料館資料整理・調査方法について」

**概 要** 1988年に開館した成蹊学園史料館は、学園正門に隣接し、地上2階、延床面積1179m<sup>2</sup>の瀟洒な独立の建物である。成蹊学園の創設者中村春二の遺徳を偲び、また学園の歴史を明らかにすることを目的に、4つの展示室を有する。今回は、この展示を見学するとともに、広報課業務と併せて史料館業務を担当している伊藤氏から、史料館業務についての報告をうかがった。

まず、展示は、2005年に東京都より博物館相当施設の指定を受けたこともあって、ゆったりとした展示スペースの中に、文書資料にとどまらず、かつて使われた教室の机・椅子や理科実験器具、映像記録など、多様な歴史資料が展示されており、非常に興味深く、魅力的な展示内容であった。

成蹊学園の史料館は、業務組織としては広報課と重なるが、史料館がおこなう史料整理などの日常業務は、成蹊学園の出身者ではない学外の史学科大学院修了者からなる研究員・調査員計6名に委ねられている。広報課長の伊藤氏も含めた専任職員2名が主としてそのマネジメントを担っている。

資料の受け入れ手順や学内資料の調査手順について、伊藤氏から詳しい説明がなされたが、現在の史料収集と整理のシステムは3年前に確立されたとのことであった。成蹊学園の史料収集・整理の活動の最大の特色は、今後進行していく100年史の執

筆も含めて、専門的能力を持った外部者に作業委託がなされていることである。もちろん、そうした体制には、自校史教育に結びつきにくいなどのデメリットもある。しかし、学園各部署の協力をうまくとりつけるとともに、史料業務に関して学外の専門的能力を活用していることは、史学科をもたない成蹊学園の実情にあった無理のない合理的なシステムであるように感じた。また、内部にきちんとした明確な理念があるからこそ、外部委託が機能しているのであろう。

(中村 青志)

### 全国大学史資料協議会東日本部会会員名簿 (2005年10月5日現在)

名誉会員 竹市 知弘・城田 秀雄・東田 全義  
会員校名 担当部課室／住所・電話他

- 1 愛知大学 総務課  
〒441-8522 豊橋市町畠町1-1  
電話:0532-47-4111  
FAX :0532-47-4132  
URL :<http://www.aichi-u.ac.jp>
- 2 青山学院 資料センター  
〒150-8366 渋谷区渋谷4-4-25  
電話:03-3409-6742  
FAX :03-3409-8134  
URL :<http://www.aoyamagakuin.jp/mcenter/>
- 3 学習院 学習院院史資料室（休会扱い）  
〒171-8588 豊島区目白1-5-1  
電話:03-3986-0221  
FAX :03-5992-1068
- 4 神奈川大学 大学資料編纂室  
(監査委員)  
〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1  
電話:045-481-5661  
FAX :045-491-7915  
URL :<http://archives.kanagawa-u.ac.jp/>
- 5 関東学院 学院史資料室  
〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1  
電話:045-786-7049  
FAX :045-786-7862  
URL :<http://www.kanto-gakuin.ac.jp>
- 6 慶應義塾 福澤研究センター  
(副部会長・会計委員)

- 〒108-8345 港区三田2-15-45  
電話:03-5427-1603  
FAX :03-5427-1605  
URL :<http://www.fmc.keio.ac.jp>
- 7 恵泉女学園 史料室  
〒156-0055 世田谷区船橋5-8-1  
電話/FAX :03-3303-6920
- 8 皇學館 館史編纂室  
〒516-8555 伊勢市神田久志本町1704  
電話:0596-22-6817
- 9 國學院大學 総務部校史資料課  
(会計委員)  
〒150-8440 渋谷区東4-10-28  
電話:03-5466-0104  
URL :<http://www.kokugakuin.ac.jp>
- 10 国際基督教大学 図書館大学史資料室  
〒181-8585 三鷹市大沢3-10-2  
電話:0422-33-3306, 3308  
FAX :0422-33-3305
- 11 国士館 理事長室広報課  
国士館年史編纂室  
〒154-8586 世田谷区若林4-31-10  
電話/FAX:03-5481-5227  
URL :<http://www.kokushikan.ac.jp>
- 12 駒澤大学 禅文化歴史博物館大学史資料室  
(運営委員)  
〒154-8525 世田谷区駒沢1-23-1  
電話/FAX:03-3418-9610  
URL :<http://www.komazawa-u.ac.jp/~zenbunka>
- 13 実践女子学園 総務部  
〒191-8510 日野市大坂上4-1-1  
電話:042-585-8800  
FAX :042-585-8808
- 14 自由学園 自由学園資料室  
〒203-8521 東久留米市学園町1-8-15  
電話:0424-22-3111(内)217  
FAX :0424-22-1078  
URL :<http://www.jiyu.ac.jp>
- 15 上智大学 総合調整室別室  
〒102-8554 千代田区紀尾井町7-1  
電話:03-3238-3294  
FAX :03-3238-3539
- 16 聖学院 本部理事長室  
〒114-8574 北区中里3-12-2  
電話:03-3917-8332  
FAX :03-3940-3798
- 17 成蹊学園 史料館  
〒180-8633 武藏野市吉祥寺北町3-3-1  
電話:0422-37-3994
- 18 成城学園 教育研究所  
〒157-8511 東京都世田谷区成城6-1-20  
電話:03-3482-1484  
FAX :03-3482-5272
- 19 専修大学 総務部大学史資料課  
〒101-8425 千代田区神田神保町3-8  
電話:03-3265-5879  
FAX :03-3265-5923
- 20 創価大学 創価教育研究センター  
〒192-8577 八王子市丹木町1-236  
電話:0426-91-5623  
FAX :0426-91-5654
- 21 拓殖大学 創立百年史編纂室  
〒112-8585 文京区小日向3-4-14  
電話:03-3947-7140  
FAX :03-3947-7294
- 22 玉川大学 教育博物館  
〒194-8610 町田市玉川学園6-1-1  
電話:042-739-8656  
FAX :042-739-8654  
URL :<http://www.tamagawa.jp/research/museum/>
- 23 多摩美術大学 70年史編纂室  
〒158-8558 世田谷区上野毛3-15-34  
電話:03-3702-1168  
FAX :03-3702-9416
- 24 大東文化大学 大東文化大学歴史資料館  
(大東アーカイブス) 開設準備委員会  
〒175-8571 板橋区高島平1-9-1  
電話:03-5399-7309  
FAX :03-5399-7310
- 25 千葉商科大学 総務課史料編纂担当  
〒272-8512 市川市国府台1-3-1  
電話:047-372-4111  
FAX :047-373-4283
- 26 中央大学 大学史編纂課  
(運営委員・事務局)  
〒192-0393 八王子市東中野742-1  
電話:0426-74-2132 (直)  
FAX :0426-74-2203
- 27 津田塾大学 津田梅子資料室  
〒187-8577 小平市津田町2-1-1  
電話:042-342-5219  
FAX :042-342-5249
- 28 東海大学 学園史資料センター  
(運営委員)  
〒259-1292 平塚市北金目1117  
電話:0463-50-2450 (直)

- FAX :0463-50-2449
- 29 東京基督教大学 歴史資料保存委員会  
〒270-1347 印西市内野3-301-5-1  
電話:0476-46-1131  
FAX :0476-46-1405  
URL :<http://www.tci.ac.jp/index.html>
- 30 東京経済大学  
(運営委員)  
〒185-8502 国分寺市南町1-7-34  
電話:042-328-7955  
FAX :042-328-5900  
URL :<http://www.tku.ac.jp>
- 31 東京女子医科大学  
史料室・吉岡彌生記念室  
〒162-8666 新宿区河田町8-1  
電話:03-3353-8111(内22213)  
FAX :03-3353-8209
- 32 東京女子大学  
大学運営部総務・企画広報課大学資料室  
〒167-8585 杉並区善福寺2-6-1  
電話:03-5382-6289(直通)  
FAX :03-3395-1037  
URL :<http://office.twcu.ac.jp/o-board/archives>
- 33 東京電機大学  
創立100周年記念事業推進本部  
〒101-8457 千代田区神田錦町2-2  
電話:03-5280-3723  
FAX :03-5280-3740
- 34 東京農業大学 図書館  
〒156-8502 世田谷区桜ヶ丘1-1-1  
電話:03-5477-2525  
FAX :03-5477-2639
- 35 東北学院 法人事務局庶務部広報課  
〒980-8511 仙台市青葉区土樋1丁目3-1  
電話:022-264-6423  
FAX :022-264-6478  
URL :<http://www.tohoku-gakuin.ac.jp>
- 36 東北大學 史料館  
百年史編纂室  
〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1  
電話:022-217-5040(史料館)  
022-217-5042(百年史編纂室)  
FAX :022-217-5042(共用)  
URL :<http://www.archives.tohoku.ac.jp>  
URL :<http://www.archives.tohoku.ac.jp/hensan/>
- 37 東洋英和女学院 法人事務局史料室  
〒106-8507 港区六本木5-14-40  
電話:03-3583-3325(代)  
FAX :03-3583-3329(直)
- URL :<http://www.toyoeiwa.ac.jp>
- 38 東洋大学 井上円了記念学術センター  
〒112-8606 文京区白山5-28-20  
電話:03-3945-7555  
FAX :03-3945-7601  
URL :<http://www.toyo.ac.jp/enryo/>  
校友会  
〒113-0021 文京区本駒込1-10-2  
甫水会館内  
電話:03-3946-9111  
FAX :03-3946-6311  
URL :<http://www.toyo.ac.jp/koyukai/>
- 39 獨協学園 本部事務局総務部  
〒340-0042 草加市学園町1-1  
電話:048-946-1631  
FAX :048-942-4312  
URL :<http://www2.dokkyo.ac.jp/~found120/index.htm>
- 40 日本工業大学 総務課  
〒345-8501 埼玉県南埼玉郡  
宮代町学園台4-1  
電話:0480-34-4111(代)  
FAX :0480-34-2941
- 41 日本女子大学 成瀬記念館  
〒112-8681 文京区目白台2-8-1  
電話:03-5981-3376  
FAX :03-5981-3378  
URL :<http://www.jwu.ac.jp/>
- 42 日本大学 総務部大学史編纂課  
日本大学資料館(仮称)設置準備室  
(監査委員)  
〒102-8275 千代田区九段南4-8-24  
電話:03-5275-8136(編纂課)  
03-5275-8336(準備室)  
FAX :03-5275-8325(編纂課)  
03-5275-9410(準備室)  
URL :<http://www.nihon-u.ac.jp>
- 43 法政大学 大学史編纂室  
〒102-8160 千代田区富士見2-17-1  
電話:03-3264-9365  
FAX :03-3264-9639
- 44 北海道大学 大学文書館  
〒060-0808 札幌市北区北8西5  
附属図書館内(4階)  
電話/FAX :011-706-2395(内線2395)  
URL :<http://www.hokudai.ac.jp/bunsyo/>
- 45 宮城学院 資料室  
〒981-8557 仙台市青葉区桜ヶ丘9-1-1  
電話:022-279-7765  
FAX :022-279-4707

- URL :<http://www.mgu.ac.jp>
- 46 武藏学園 記念室  
〒176-8533 練馬区豊玉上1-26-1  
電話/FAX :03-5984-3748  
URL :<http://www.geocities.jp/sirakigi>
- 47 武蔵野美術大学 大学史史料室  
(運営委員・事務局)  
〒187-8505 小平市小川町1-736  
電話:042-342-6091  
FAX :042-342-9547  
URL :<http://www.musabi.ac.jp/history>
- 48 明海大学 浦安キャンパス  
メディアセンター(図書館)  
〒279-8550 千葉県浦安市明海8  
電話:047-350-4997  
FAX :047-355-7992  
URL :<http://opac.meikai.ac.jp/>
- 49 明治大学 明治大学史資料センター  
(部会長)  
〒101-8301 千代田区神田駿河台1-1  
電話:03-3296-4085・4329  
FAX :03-3296-4086  
URL :<http://www.meiji.ac.jp/history>
- 50 立教女学院 学院資料室  
〒168-8616 東京都杉並区久我山4-29-60  
電話:03-3334-5105  
FAX :03-3334-8393  
URL :<http://www.rikkyo.ne.jp/grp/jogakuin-shiryo>
- 51 立教大学 立教学院史資料センター  
〒171-0021 豊島区西池袋3丁目  
電話/FAX :03-3985-2790
- 52 立正大学 総務部総務課  
〒141-8602 品川区大崎4-2-16  
電話:03-3492-2681  
FAX :03-5487-3338  
URL :<http://www.ris.ac.jp>
- 53 早稲田大学 大学史資料センター  
〒169-8050 新宿区西早稲田1-6-1  
電話:03-5286-1814  
FAX :03-5286-1815  
URL : <http://www.waseda.jp/archives/>
- 個人会員**
- 青柳小百合 (株ニチマイ)
  - 秋山 俱子 (元日本女子大学成瀬記念館)
  - 安藤 正人 (大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館  
アーカイブズ研究系)
  - 石原 一則 (神奈川県立公文書館)
- 5 伊藤 純郎  
(筑波大学大学院人文社会科学研究科)
- 6 上田 敏代 (東京女子学園中学校・高等学校)
- 7 内山 宏 (日仏図書館情報学会)
- 8 大沢 泉 (八戸大学商学部)
- 9 小川千代子 (国際資料研究所)
- 10 神谷 智 (愛知大学文学部)
- 11 北村 和夫 (聖心女子大学文学部)
- 12 坂口 貴弘 (慶應義塾大学[院])
- 13 谷本 宗生 (委員会委員・東京大学史史料室)
- 14 寺崎 弘康 (神奈川県立歴史博物館)
- 15 中村 治人 (岡崎女子短期大学)
- 16 中村 賴道 (企業史料協議会)
- 17 西山 伸 (運営委員・京都大学大学文書館)
- 18 日露野好章  
(東海大学課程資格教育センター)
- 19 藤田 正 (愛媛県歴史文化博物館)
- 20 古郡 信幸 (清泉女子大学学務課)
- 21 細井 守  
(藤沢市教育委員会博物館準備担当)
- 22 堀田慎一郎 (名古屋大学大学文書資料室)

**ご案内**

全国大学史資料協議会及び同協議会東日本部会に関するお問い合わせ、入会申し込みは、下記へご連絡ください。

**【中央大学・大学史編纂課】**

〒192-0393 八王子市東中野742-1  
**☎ 0426-74-2132**

**【武蔵野美術大学・大学史史料室】**

〒187-8505 東京都小平市小川町1-736  
**☎ 042-342-6091**

**会報編集**

編集委員会

**【神奈川大学大学資料編纂室・齊藤研也】**

〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1  
**☎ 045-481-5661**

**【東海大学学園史資料センター・**

**馬場弘臣・加瀬大】**

〒259-1292 平塚市北金目1117  
**☎ 0463-50-2450**